

4 成果と今後の課題

(1) 成果

全員発言

- ・いつも挙手をして発言をしたがる児童だけでなく、手を挙げない児童にも意図的に発言の機会を与えることで自分の考えを表現し、みんなに理解してもらうことの楽しさを味わい、自信をもって発言しようとする児童が増えてきた。また、必ず発表しようという緊張感が授業への主体的な取組につながっていた。

スピーチ

- ・国語科での学習を生かして、実践につなげたことで、声の大きさや速さだけでなくメモや原稿の準備、テーマといった内容についても深めていくことができた。また継続して取り組むことで、よいスピーチのあり方が徐々に学級の中に広がり、授業中の発言にも生かされるようになってきた。

授業評価

- ・少人数指導についてのアンケートでは、「授業はよくわかる」「授業の進む速さはちょうどいい」等、授業のあり方についての児童の思いを直接受け止めることができた。保護者にもアンケートを実施したことで、少人数指導についての理解を広げることができ、その後の少人数指導の授業改善に役だった。
- ・児童は先生のあゆみにその学期の教師の取組について、「漢字の教え方が分かりやすかった。」「声の大きさがちょうどいい。」といったよい点、逆に「等高線のところは、もうちょっとていねいに説明してほしいです。」といった要望を書いていた。自由記述欄を多く取っているので数値化することは難しいが、児童の生の声を知ることができ、次の学期にはそれを授業改善につなげることができた。
- ・授業の「ふり返し」の内容から個々の授業の取組や理解度を知ることができ、発問や作業の設定が適切であったか等、授業の仕組方への評価として活用することができた。

(2) 今後の課題

全員発言

- ・ひとクラス40名近い児童が全員発言するためにはかなりのまとまった時間が必要である。それぞれの教科や単元の内容にふさわしい全員発言の場やあり方を更に研究していく必要がある。

スピーチ

- ・帰りの会でスピーチを行っているが、本校では安全確保の観点から集団での下校を行っており、下校時間に遅れることはできないため時間に余裕がない。継続して取り組むことで児童は力をつけつつあるが、余裕をもって指導していくための場の設定を工夫したい。

授業評価

- ・ふり返しは書かせただけでは成果につながりにくい。授業中に児童が書く時間とともに、教師が授業後そのふり返しに目を通す時間をいかに確保していくかが課題である。また、アンケートやふり返しなど、様々な授業評価を更に分析して授業改善につなげていく必要がある。特にそれぞれの結果を統合し、結び付けて総合的に考えてみる必要を感じている。